

第二。小兒を抱いたり負ふたりして、強く身體を動かすとか、又は疾く走るとかするとも、亦た矢張り第一と同じ結果を生じます、乳母車にのせて、石コロ道も構はずに、がたびしと押しあるくのも甚だ悪いのです。

第三。ワツと云ふて顔を出したりなど、突然に小兒を驚かすことはいけません、頭腦にこたへる様な音響をさかすことも同前です、かゝることは、大人ですらも、吃驚して心臓の鼓動がたかまります、況して小兒には、一層甚しく影響します、然して其結果は、やはり血のめぐることに變動を與へるものです。

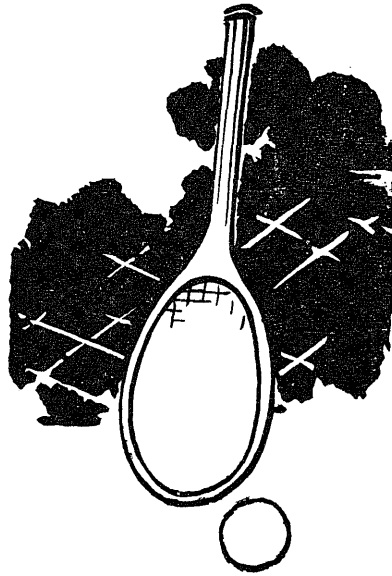
第四。氣候のことも注意してやらねばなりません、極暑に逢ひますと、血行が早くなり、極寒にうたれると、反對に鈍くなり、だから氣候の急變

に氣をつけて、よく兒童を保護してやらなければなりません、通常一般の風邪ひきは、厚着を急に薄くするなど、皮膚の血行が平均を失ふためである。

第五。身體の或部を壓迫することも、亦た血の循環をにぶく致します、無暗に帯をかたく結んだり、又は、兒を背負ふときに、負紐でもつて臀のあたりを緊縛し、兩脚をぶらぶらとしておくなど、甚だ悪い。そして此の弊は小兒を寢さすのに、常に同じ片側ばかり下にさす場合にも起るのです。

子供の泣き方に就いて

- (一)眼をあき、涙を澤山だして、泣くのは、からだに、いたみ所のある時かおなかのいたい時であります。
- (二)眼をあき、涙を少々出して、泣くのは、背負はれるに、あきたのか、又は、其場所にあきたのであります。
- (三)眼を細め、或は、眼の中にうるみを持って、泣くのは、眠氣のさした、時であります。



(四)間をおき、ふしをつけて、泣く時は、空腹、又は、のんどの、かわいたので、あります、此時は、乳を與へるか、或は、さました湯を與へるがよくあります  
 (五)手足をもかき、全身に力を入れて、非常に、泣く事があります、此時は、がらだの發音上、必要があつて、泣くのでありますから、十分か十五分位は、泣せてよろしくござます。

フレーベル會俳句端書集

(一) 課題 當季雜吟 一人十句以下 (二) 締切 八月二十五日限り (三) 披露 明治三十八年十月發行本誌上 (四) 賞品 天地人三座には景品を呈す (五) 撰者 本會の撰評 (六) 投稿 本誌購讀者は何人にも投吟する事を得用紙は繪葉書に限り (眞筆刷物隨意) 住所氏名雅號を明記し 必らず左の名宛にて送らるべし、

埼玉縣入間郡芳野村フレーベル會俳句掛

鹽野奇零宛

第十三回俳句端書集

川船にとぶや蟹の右左り 仙臺 一 瓢  
 追ひつめて見れば川あり蟹狩 同  
 一と聲は隣りの門や初松魚 同  
 菅笠の霧に隠る、夏野かな 武藏 白醉樓  
 蟬啼くや松原十里風絶えて 同  
 五月雨や昨日の傘を又借りつ 同  
 蚊遣火に三郎を待つ次郎かな 東京 辰子  
 覗きく針箱を出す枕綱 同  
 ハスト流行る貧乏町や五月雨 同